

# 九条ブログはらまち

「はらまち九条の会」ニュース No. 4 5

2007(平成19)年12月18日(火)発行

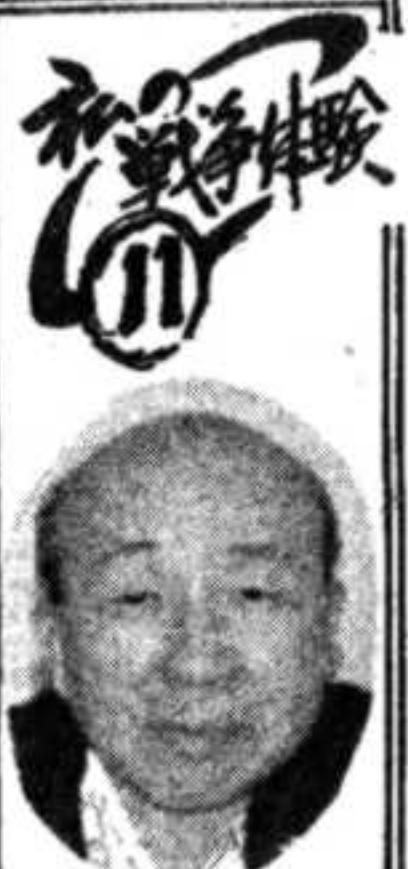
↑国連旗にあるマーク

<51年前の1956(昭和31)年12月18日は、日本の国際連合加盟承認の日>

1933年国際連盟の脱退から太平洋戦争を経て23年、新生平和国家の日本が認められ、国際連合の第80番目の加盟国となる。現在の加盟国は192か国。・国連のマークは、北極からみた世界と平和の象徴オリーブの葉▲

この「九条ブログはらまち」は、<http://souseu9.web.fc2.com> あるいは「相双地区九条の会フォーラム」、さらに「はらまち九条の会」で、1号から全号を見ることができます。

私は昭和十五年五月六日生  
れなので、今年六十七歳です。生  
まれたときの記憶が、五歳の終戦ま  
での覚えてみます。



# 五歳の想い出、三ヶ月間の疎開

かり、それも全てが日本國軍の勝利と留守を守る婦人部隊の絵ばかりであった。

昭和二十一年一月十六日の原町空襲、八月九日と翌八月十日の空襲で多数の犠牲者が出了事や、原町から召集されて戦没した兵士は千四十柱にのぼつた事など、幼児の私には知るよしも無かつたが、原子供心には原町飛行場、原町紡織工場、帝國金属原町工場等があつたので空襲が激しくなるのではと恐ろしさを感じていた。

太平洋戦争下の国民生活



第一学習社『最新図説日本史』より

五月の末頃から、大町の家から隣村高平村に疎開する事となつた。母三人は、生まられてまだ二ヶ月の妹と私の弟、兄は親戚の家に行くことになつた。祖母八歳の実家へ行く事になり、高平村金沢踏切で別れた。砂利と線路の上をすら高平のトンネルの方に歩く。ひたすら寂しくて自然に涙が出た。疎開先は一面梨畑で、畑の一角に納屋を片付けて頂き、住み込んだ。何時まで続くのか分からぬ不安と楽しみが同居していた。それは食べる物があつた、「楽しみ」、それから「楽しかった」だ。中んあがひたすら高平のトンネルの方に歩く。砂利と線路の上をすら高平の実家へ行く事になり、高平村金沢踏切で別れた。母三人は、生まられてまだ二ヶ月の妹と私の弟、兄は親戚の家に行くことになつた。祖母八歳の実家へ行く事になり、高平村金沢

高平村の親戚の家に疎開  
兄と別れて涙が出た

戦時下の住居(復元) 窓には、爆風によるガラスの散乱を防ぐために紙がはられた。また、電灯には、灯りが外にもれないようにカバーがかけられていた。防空頭巾や鉄かぶとなど、空襲に備えての品々が常備されて、空襲の情報を知るラジオは必需品であった。

表のページより  
終戦間近の七  
梨畑の上空を飛  
向かつて行つた  
襲に向かつたの  
オレンジ色に見

終戦間近の七月末頃か八月か、やけに梨畠の上空を飛行機が爆音を響かせ北へ向かつて行つた。原町を空襲し仙台に空襲に向かつたのだろう。仙台の北の空



陸軍の高射砲が設置されていた原町第一小学校。八月十日に空襲された。

天皇の玉音放送は覚えている  
それからどの位経ったのか、当日の天候は曇り雨だつたという。午後だつたか、役場の職員か地元の人か、「明日の正午、重大な発表があるのでラジオを聞く様に」と大声で叫びながら歩いて行つた。その日は八月十四日（火曜日）だつた。

翌八月十五日（水曜日）正午、当日は晴れだつた。テレビでよく見る光景である。ラジオの前に全員が集合。ピーピー・ガーガーの雑音でなかなか聞き取りにくい。ラジオを叩くと少し雑音が止まる。初めて聞くあの天皇陛下の玉音放送であ

るが、『九条ブログはらまち』三八号に掲載されたような凄まじい原町空襲のことは記憶にない。

疎開から家に戻つてみると  
近くには爆弾の大きな穴が

短い三ヶ月の疎開の体験から我が家に全員が辿り着くものの、家の中は障子が外れ家具が横になつていて、至近距離に落ちた爆弾の痕と思われる大きな穴があつた。家の破壊は爆風によつてだらう。もしそのまま住んで居たらと思うと、恐怖で身体の震えが止まらなかつた。二十年秋には父が復員、家族全員がやつと揃つた。

### 飛行場跡は子供たちの遊び場に

戦後、雲雀ヶ原飛行場跡は我々子供達の楽しい発掘場所の遊び場ともなつた。薬きょうやテンガイとよばれた飛行機の部品、その他の戦争兵器の残骸があつたからだ。敗戦直後の何もない時代の、格好なおもちゃを提供してくれる場だつたのである。

## 敗戦国日本歴史を忘れず 戦争放棄の憲法を順守しよう

現在太平洋戦争の記録を見るに付け読みに付け、あの悲惨な戦争、テロや人種同士の戦いが、今尚世界各地で行わされているのが残念でならない。戦争を知らない若者達に、敗戦国日本の歴史を忘れず、戦争放棄の憲法を順守して平和な地球を、世界中の人類が平和に暮らせる日が本当に来る事を？それは、政治家より国民が選択すべき事なのだろう。戦争の悲惨さと、福祉国家だと言われている現在何処が違うのか、改めて考える時期だと思う。最後に、昭和二十年四月に誕生した妹は六十年後の九月にこの世を去った。



○今回の「私の戦争体験」の荒功雄さんは、原町区北新田の(有)「ライト印刷」の社長さんです。今年で創業50年、「はらまち九条の会」の印刷物の「シール」や復刻版の「憲法」小冊子の印刷などで、大変お世話になっています。

○これまでの「私の戦争体験」は、<有森>の通りで今回が11回です。

第9回の菅野清二さんが述べておられます。“特別な体験でなくとも、ごく普通の方の戦争体験が戦争の愚かさや実相を正直に伝え、平和につながることになる”と思います。感想をお寄せください。

○九条の会の会員でも、会員でなくとも、どうぞ「戦争体験」の原稿を原稿用紙3~5枚でお寄せください。聞き取りでもけっこうです。

○また、「『はらまち戦争体験集』をみんなで作りませんか」という意見も出ています。今年の夏いわき市の市民が、戦争体験集を発行されていますし、福島県九条の会でも現在、「戦争体験」を募集中です。

## ○これまでの「私の戦争体験」○

- 第 1回 (No.12) 早坂吉彦さん  
第 2回 (No.15) 鈴木丑太郎さん  
第 3回 (No.17) 星千枝さん  
第 4回 (No.21) 相良利信さん  
第 5回 (No.27) 佐々木孝さん  
第 6回 (No.30) 遠藤昌弘さん  
第 7回 (No.32) 佐藤ヒロ子さん  
第 8回 (No.33) 松本道子さん  
第 9回 (No.38) 菅野清二さん  
第10回 (No.43) 中野目利次さん  
今回第11回 (No.45) 荒功雄さん

**訂正** ●『九条プログはらまち』No.10（2006年10月12日発行）に、日本とイタリアの国旗とドイツのナチス旗のイラストを描きましたが、戦前のナチス（ナチ党）の党章は鉤十字（トケウカイ）ですが、うっかり、仏教の



アントワネットは釣り手（アーチル）ですが、アントワネットは、仏教の  
心に描いてしまいました。先日ようやく誤りに気づきました。

- **卍**(万字)は、古代インドのビシュヌ神の胸の旋毛が起源といわれ、瑞兆の相。仏教や仏教寺院、仏心の象徴です。
  - **卐**(鉤十字かぎじゅうじ・逆さま卍・ハーケンクロイツ)は、ナチス(ナチ党)の党章で、反ユダヤ主義の象徴として使われた。ちなみに、ユダヤの象徴が  (ダビテの星)です。